

平成 30 年度第 1 回 新潟県・新潟市調整会議後の記者会見(要旨)

会見者：北川顧問、花角新潟県知事、篠田新潟市長

平成 30 年 7 月 23 日（月）14:30～14:45 於：新潟県庁 201 会議室

(北川顧問)

この会議が始まった頃は、県と政令市が力を合わせて、新潟県全体のことも県内市町村の皆さんと一緒に考えていくということで、一番最初は勇ましく新潟州構想とかいろんなことがあった。ただし、実現可能な最大値を求めるという話合いの中で、二重行政の解消をしていこうということになり、県市の人事交流などが始まり、一定の成果が出てきた。

そうした時に、米山前知事の頃から、この議論をいよいよ政策的な課題にも取り組んではどうかということで、拠点性を踏まえて都市デザインをどうするかというようなことになり、西村教授に県市合わせてお願いして都市デザインを描き、更に港、空港、駅周辺全体の交通体系の都市機能の整備もどうしようという話合いに変化してきた。

花角知事が就任され、新潟市との関係をどうするのかということが本日の会議で整理されて、もう一回県市合わせて調整していこうという成果が今日の会議であった。

県市が力を合わせて、更に県内全体も目配りしていただき、多様な主体で地方創生をやられるということなので、当然、経済界や関係者の皆さんとも力を合わせて、両トップが方向性を決めて、そして担当の方がしっかり具体的に対策をとっていく。

こうしたことが話し合われ、結論が出た会議であり、それなりの意義があったと総括したい。

(花角知事)

会議挨拶でも申し上げたとおり、私自身は初めてこの県市調整会議に出席したが、非常に率直な意見交換ができた、そういう意味では有意義な会議であったと思う。

新潟市長がどういうことをお考えなのか、提出された議題だけでなく、もう少し周辺も含めて幅広くお聞かせいただくことができた。

これから勉強しないといけない部分が多いが、この新潟のまちで育った人間として、例えば議題にあった都市デザインについては、本当にいい画ができたと申し上げた。

今日の意見交換を踏まえて、少しずつ、できるだけスピード感を持って具体化をしていきたい。特に都市デザインの部分はそれぞれの議論の場があるので、そこでしっかりと議論を詰めていってほしい。

(篠田市長)

今日初めて花角知事から参加いただき、北川顧問から有益なアドバイスをいただき、良い調整会議であったと思う。これまで新潟市のまちの魅力をアップしようということで新潟駅と万代島の2つを象徴として取り上げ、また都心軸を中心とした都市デザインを西村先生にアドバイスをいただきながら県市で明確な画にさせていただいたことはありがたかった。

港・空港・交通体系を含めた拠点化に対する花角知事のカラーを新潟県内市町村長は求めているのではないかと、また、市長会・町村会で皆の考えを聞いていただいた上で県の方向性を出していただけると良い広がりになるのではないかと、ということを経済委員会の会議で申し上げた。

基本的にはこれまでの駅・万代島というところからさらに具体的個別的にテーマを決めて拠点化、活性化を議論する場が県、新潟市そして市長会、町村会というところに来上がったということだと思えるので、首長たちも非常に期待しているだろう。そういう面でも良い皮切りになった。

【質疑】

Q 北川顧問と篠田市長に伺う。前回の県市調整会議から知事が代わるという大きな変化があったが、その点の県市の連携、特に拠点性の向上の連携という点で、知事が代わったことの影響はどのように発生しているのか。

(北川顧問)

この調整会議を共に推進していこうとお互いに確認ができて、きちんと腰を据えてやっていただけという感覚が伝わってきたので、本当に有意義だった。

新潟がモデルになって、法定化された調整会議なので、引き続き花角知事もその方向性でやると受けていただいて、喜んでいる。

更に今までの効果、努力を上積みできる、そういう方向になったと安心させていただく会議になった。

(篠田市長)

前の知事のとくに新潟駅周辺、万代島という2つのテーマが象徴的に出され、それに加えてまちなかのデザインを描こうということになり、その報告が今日あったが、良いものができたと思っている。

拠点化について、まちなかではなく空港、港湾、またそういった拠点を結ぶ交通体系など、課題が山積していると思っている。今日は就任後間もないので、知事に方向

性を聞くことはしなかったが、拠点化について、市町村長と意見交換した上で花角知事がリーダーシップを発揮してくれるという期待感が、今日の会議を経てますます募っている。

Q 知事に伺う。拠点性向上を議論のテーマにするのは前回の会議以降、特に県議会などで、県土の均衡発展という観点から、県が政令指定都市のまちづくりにどこまで関与するのかが一つの論点になっていたが、その点はどのようにお考えか。

(花角知事)

基本的に県は広域自治体であるし、新潟市を含めて基礎自治体である市町村とは、自ずと役割や見る視点は違う。拠点性向上について、県が何も言わないのも変であり、過剰に申し上げて、新潟市の自主性なりお考えを歪めるようなことがあってもいけないが、物事を前に進めるような観点での発言はしていきたい。

Q 知事に伺う。今日の会議で、初めての参加になったが、知事の方から何か意見やアドバイスなど、何かご発言はあったか。

(花角知事)

冒頭で申し上げたとおり、都市デザインについては、私の肌感覚にも、このまちで育った者として非常に感覚に合う、いい画になりましたと申し上げた。

ぜひこれをそれぞれの場で具体化していきましようとお申し上げた。

Q 市長に伺う。こうした形で花角知事を迎えての会議というところで、改めてこういう会議を迎えられた気持ちは。

(篠田市長)

基本的にこの数年、県内市町村が県と一緒にあって拠点化・活性化を議論する場ができなかった。これが前知事のときに意見交換をしっかりとできるようになり、市長会も町村会もさらに意見交換が実のあるものになるよう拠点化・活性化検討会議の3部会を立ち上げたところに、拠点化・活性化に非常に実績のある専門性の高い花角さんが知事に就任されたということで、私のみならず県内市町村長の期待はかなり強いものがあると思っている。

今日は新潟市と知事との会議だったが、今後は市町村長の考えをまず聞いていただいた上で、花角カラーを年内あるいは年度内に明確に出していただけると、市町村長の思いと合致してまさに新潟県が総力を集める体制ができるような気がしている。